

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4170300406
法人名	有限会社 ハートコネク
事業所名	グループホーム さくらの樹
訪問調査日	平成 19年 6月 15日
評価確定日	平成 19年 8月 21日
評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170300406
法人名	有限会社ハートコネク
事業所名	グループホームさくらの樹
所在地	鳥栖市弥生が丘4丁目22番 (電話)0942-82-5777

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会
所在地	佐賀市鬼丸町7-18
訪問調査日	平成19年6月15日
評価確定日	

【情報提供票より】(平成19年 5月22日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 2 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 2 人, 非常勤 12 人, 常勤換算	8.45 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての1階部分
------	----------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	40,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(6月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ももち浜クリニック、やよいがおか鹿毛病院、きやま鹿毛病院、こばやし歯科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鳥栖市の北東部に位置する新興住宅街にあり、交通の便も良く、周りには公園や病院、コンビニエンスストア、レストラン等が点在している。職員は、運営者の認知症高齢者介護に対する熱い思いを共有し、常に入居者を敬い、笑顔のあるその人らしい毎日となるように一丸となって支援している。なお、職員も基準より多く配置されており、それぞれの入居者のペースに応じた支援が一層可能になっている。ホーム内は入居者が、居心地良く安心して過せるための工夫が随所に見られる。建物の回りには、長いサンデッキがあり、入居者はいつでも自由に出ることができ、外気浴やお茶を楽しまれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画の共有や地域との交流に関する事等を主な改善課題とし、職員全員で取り組み改善を図っている。改善状況もまとめられており、その後の支援に活かされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者及び職員は評価の意義と目的を理解しており、全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、現況や行事等の報告を行い、意見などを求めて運営に活かしているが、サービス評価を結びつける取り組みまでには至っていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や運営推進会議の折に意見や苦情を求めている。意見に対しては、前向きに取組み運営に反映している。苦情に対しても円滑迅速に対応するためのマニュアルを作成している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会にも加入し、地域のお祭り等に参加したり、ホーム便りも配布して理解を図っている。また、地域の保育園との交流やボランティアの受け入れ等をおとして徐々に連携を深めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「楽しい我家、明るい家族」を理念に掲げ、入居者が家庭的な環境の中で、その人らしく安心して尊厳を保ちながら暮らし続けられるように取り組んでいる。	○	これまでのグループホームの基本方針に加え地域密着型サービスとしての役割を目指した理念の構築が期待される。
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日常的に理念について話し、その具現化に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入しており、地域のお祭り等に参加したり、ホーム便りを配布している。また、地域のボランティアや保育園児との交流も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を運営者や職員は理解しており、今回の自己評価も全職員で取り組んでいる。前回の評価へも前向きに取組み早期に改善を図っている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政の職員や地域包括支援センターの職員、地域の代表者等の参加が得られておらず、サービスの質の向上を図るための十分な活用には至っていない。	○	外部の人の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合う機会とし運営推進会議の効果的な運営が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回以上、ホームからは出向しているが、運営推進会議への行政機関からの協力等も十分には得られておらず、サービスの質の向上への協働関係が十分とは言えない。	○	行政担当者から、地域密着型サービスの推進を図るための積極的な情報や協力が得られる取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会や電話の折には積極的に報告を行っている。入居者の生活ぶりを写真に撮り、近況を添えて毎月届けたり、面会時には、ケース記録や日々の献立の写真等も見てもらい喜ばれている。預り金はきちんと出納が管理されており、定期的に家族に報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族の代表者が参加されており、意見には前向きに取組み運営に反映している。玄関には意見箱も設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は馴染みの職員による支援の大切さを理解しており、離職を最小限度に抑えるように努めている。職員の交代時には、十分なオリエンテーションを行ったり勤務体制を考慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の受講には積極的に取り組んでおり、今年度も数名の職員が外部の研修を受講する予定である。また、受講者は職員会議の折に研修内容を報告し、周知を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会やケアマネージャーの会に属しており、会合や研修会にも参加している。また、近隣のグループホームとの交流を行い、サービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族等からの相談後には、自宅訪問や体験入所等を取り入れながら馴染んでもらうように努めている。庭仕事が好きだった方の場合には、入居後も、家族の協力を得ながら自宅での庭いじりに出かけてもらい、一方、ホームにも庭いじりのできる環境を準備し、徐々に馴染んでもらうことができた方もおられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	運営者や職員は入居者と温かい家族としての関係作りに努めており、お互いに支えあう関わりがみられる。味噌や梅干作り、漬物作りや料理等では入居者の力が発揮されている。また、移動の折等には、入居者同士の支えあい様子も見られる。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	積極的に声をかけたり、わずかな反応や表情の変化にも気をつけて、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。職員間の情報交換や、家族等からの情報収集も密に行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望や意見を尊重しながら、職員全員で意見交換等を行い、入居者一人ひとりが、その人らしく安心して楽しく暮らしてもらうことを目標に、個別の具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に応じて定期的な見直しを行っている。なお、入居者の状態変化や家族等からの要望等があった場合には、随時の見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、健康管理や入院時の早期退院及び重度化した場合等に備えている。また、日常生活では、受診に付き添ったり、家族への昼食の提供等を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向により、以前からのかかりつけ医の受診や協力医の往診を受けている。通院は基本的に家族に介助を依頼している。但し、家族の対応が不可能な場合には、職員が有料で代行するようしており、契約時にその旨を説明し、同意を得ている。往診には、家族も同席し医師の説明を聞く事もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームが対応しうることを見極めて、対応の指針を定め、入居時に家族等に説明している。日頃から協力医等の指導を受け、終末期における医療処置に関する準備も進めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に、人生の先輩として敬い、プライドや人格を損ねない言葉かけやさり気ない対応がされている。職員は個人情報の保護についても理解しており、写真等の利用に関しては家族の承諾を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは作られているが、レクリエーション等への参加も強いることなく、一人ひとりの意向やペースを尊重して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りや料理の下ごしらえ、盛り付け、配膳等一連の流れに入居者の力が発揮されている。職員も同じテーブルで同じ食事を食べ、楽しい雰囲気作りを心がけながらさり気なく支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴時間や入浴日が決められているが、時間帯もゆつくりと組まれており、入居者の希望や意向を尊重しながら柔軟に支援している。希望があれば毎日の入浴も可能である。また、夜間入浴の希望時には夕方に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしが笑顔のある生き生きとしたものであられるように、一人ひとりの生活歴や趣味等を把握し活用している。掃除や草取り、植木の水遣り、料理、盛り付け、洗濯物たたみ、習字、読書等が行われている。エプロンをして楽しそうにモップがけをされたり、昼食をきれいに盛り付けられたり、読書を楽しまれる様子等が見受けられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日午前と午後に、入居者と職員が1対1でコミュニケーションを図りながら散歩をしている。また、おやつ等の買物や外食、花見等に出かけることも多く入居者の楽しみになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は、玄関や非常口等のドアの鍵はかけておらず、自由に出入りができる。職員の気配りや声かけによって見守り、外出希望時にはさり気なく付き添っている。ホームの回りにはサンデッキがあり、自由に出入りができて開放感が楽しめる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、毎年1回、防火訓練や避難訓練を行っている。	○	夜間など職員だけでの誘導の限界を想定し、近隣の人達との連携を図った訓練を実施するなど地域住民の協力体制を築く一層の取り組みと工夫が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや栄養バランスに配慮して献立を作成しており、摂取量も毎食ごとに観察し記録している。水分摂取にも気をつけており、それぞれの入居者の好みに応じて飲み物を用意し支援している。また、入居者が自らも摂取されるように、居間の目に付く場所にも準備されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や台所、トイレ、浴室等の配置や設えには、入居者が家庭的な雰囲気の中で、安心して居心地良く過せるための工夫と配慮が施されている。居間の傍らには台所があり、調理の音や匂い等が五感を刺激すると共に生活感を漂わせている。また、食卓の上には紫陽花等の季節の花が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や時計、テーブル、椅子、装飾品、本、小物等、本人が大切にされていた物や生活に合わせた物が持ち込まれている。		